



高知家移住促進プロジェクト 定例会in大豊町



2月20日、農工センター会議室において、「移住者の受け入れと地域の未来」というテーマで、大豊町内で積極的に移住支援をされている地域の方のお話を聞き、一緒に移住を考える会が開催されました。

参加者は、高知県下の市町村職員や、移住支援団体、そして一般傍聴者の方を含め、30名ほどでした。大豊町内の4つ

の集落・地域で、日ごろから区長や民生員として活動されている方々が、移住者と積極的に向き合い、地域の存続のために尽力されている様子がひしひしと伝わってきました。以下に内容をまとめましたので、ぜひ他の集落・地域でも実践していただけたらと思います。

移住支援をする理由は？

- 高齢化・過疎化が進み、既存の住民だけでは集落維持活動が出来なくなってきた。
- 空き家を活用し、集落の人口増や活気を取り戻したい。
- 田舎に興味を持つ若者が増えてきた。

支援活動の内容は？

- おせっかいは程々に、ジジババのように暖かく見守り、困っている時に手を差し伸べる。
- 空き家の情報や家主との連絡。（時には説得も）

移住者受け入れによる集落の変化は？

- 集落が明るく元気になり、集落維持活動も継続できている。
- 文化や風習の継承が可能になった。

大豊町の未来にとって大切なことは？

- 価値観の違いを認め、互いに尊重し合い、コミュニケーションをとること。
- 古今、老若、出身地の垣根を超え、協力し合って住みやすい大豊町を目指す。

移住支援・空き家情報に関するご相談は、野田（080-8635-225）まで

元気おおとよの活動について

NPO法人元気おおとよは、大豊町を元気にするために、住民の皆様が困っていることや助けてほしいことに、住民目線で取り組んでいます。メンバーも一住民であり、それぞれが自分の仕事を持ち、自分の集落も守りながら、できる限りの時間を割いて、活動しています。このことをご理解いただき、一緒に活動（どんな小さなことでも）していただける方を広く募集しています。

ガレット出店予定

- ヴィレッジ
日程：5/16-17(土-日)
時間：10:00-17:00
場所：高知市鏡川公園
- お山の手づくり市
日程：6月4日(日)
時間：10:00-15:00
場所：大豊町津家
(役場仮庁舎裏手)

※状況により、中止になる可能性もあります。

イベント中止

今年の



は中止です。

理由：「新型コロナウイルス感染症対策」のため
また来年お楽しみに！

そば物語 ～そば打ち編～



今回はそば物語そば打ち編の報告です！

参加者は少なかったですが、その分1人ずつそば打ち体験をしてもらいました！子供達は一生懸命に頑張っていました。私たちスタッフも参加者に負けないように、そば打ち技術向上のためしっかり学びました！

去年は害獣被害が深刻で、ソバの収穫量がかなり減ってしまいました。そのため、今回は別のそば粉を使用。とても残念です。ソバの実実は冷蔵庫で、そば粉は冷凍庫で保存をすると長持ちします。3年経っても芽が出ると言われるほどのようです。今回は2年もののそば粉を使用しました。

2年もののそば粉ですが、大豊町産のそば粉はしっかりと香りが残っていました。最近家でもそば打ちを時々して、色々なところのそば粉を使いますが、大豊町産のそば粉は香りが強いなと良く感じます。厳しくも、自然豊かなこの環境が、香り高いそば粉を生んでいるのかなと感じます！

今回は1人3～4人前ずつ打ってもらいました！お店では10人ぐらいで打つのが通常ですが、家庭ではこれぐらいで打つのが打ちやすいです。

そば打ち初めての方や、久しぶりにそば打ちをもう一度学びたいなど参加の理由は様々ですが、一生懸命に打ったソバは上々の出来に。自分たちで打ったソバはお家で食べてもらい、見本で打ったそばを、みんなで食べました。寒い時には暖かい蕎麦で！みんなで美味しくいただきました。

今、大豊町だけではなく、全国的にもソバの栽培が減ってきています。機械化のしにくい作物であることや、作り手の高齢化など国産のソバは貴重です。

空いている畑がある、自分でも少し作ってみたいなど、興味がある方は、今年のそば物語に是非参加してみてください！

(中平)

ピックアップ in おおとよ ～庵谷百手～

大豊は文化財や伝統芸能などがたくさん残され受け継がれています。高齢化や後継者不足に悩まされながらも、地域で助け合い協力し合って営々と守って来ました。その中で今回は、百手をピックアップします。永渕やボタン杉のもとで行われる桃原の百手は見たことがあるのですが、庵谷にもおもしろい百手があると聞き早速駆けつけました。



歓声や応援、時折のやじの中、むかしながらのお揃いの装束をまとい、キリリ(?)と弓を振り絞る姿はまさに絵を見るようでした。射手の中には、この日のために帰ってきた郷土出身の方や役場の職員、移住者の方もおい出たようです。また、高知大学のスペインの先生、インドネシア、台湾、中国の学生さんも、百手の終わった後、射手の方に手ほどきを受けながら弓に興じていました。

ちなみに、庵谷百手には15の役がありその内訳は、弓太郎・小弓太郎(それぞれ2名で世襲)、射手役(8名で各集落から選抜)、矢取り(1名)、目録消(1名、射る前に行う各集落に点在する神社名の読み上げ)、太鼓打ち(ドーンの音を合図に一矢、ドドドーンで打ち合わり、景気づけも兼ね勇壮さが増します)。

百手が終わると神事や祝宴に移るとのこと。神官さんを中心に集合写真を撮らせていただいた後すがすがしい気持ちで肌寒さの残る階段を降りました。(鄙)

2月13日(旧暦の正月20日) 急な階段を息を切らしながらあがると立派な本殿、そして境内から見下ろす所に広いつieldと天井の高い射場。大きな太鼓のドンという音を合図に次々と矢が放たれていました。



12名の射手が6名ずつ2組に分かれ、それぞれ2射ずつ射ます。的は1メートルを超すものから20センチに満たないものまで3種類。今年は寄付もあって当たれば賞金が出るということで力が入りました。大きな的にはいくつか当たったようですが、小さな的にはなかなか当たりません。おしいの声には「矢取り役」が確かめに走ります。結局賞金は神社に寄付ということになったようです。

